

難聴のお子さんをおもちの保護者のみなさまへ
～子育て編～



埼玉県立小児医療センター 耳鼻咽喉科 難聴ベビー外来

〈はじめに〉

お子さまのご誕生、おめでとうございます。

産まれてきてくれて嬉しい気持ちも束の間、お耳が聞こえにくいかもしれないと告げられた時は、「どうしてうちの子が?」「何が原因なの?」と、予期せぬ結果に驚かれたご両親もいらっしゃるかもしれません。

- ・耳が聞こえない、聞こえにくいって言われたけど、どういうこと?
- ・聞こえにくいと何が困るの?
- ・ことばはしゃべれるようになるの?
- ・保育園や幼稚園、学校には行けるの?
- ・お友だちとコミュニケーションはとれるの?



など、いろいろな心配や不安があると思います。

そんなご両親の不安や悩みが少しでも和らぐ材料の一つになればと思い、この冊子を作りました。

この冊子には、乳児期の基本的な子育て、関わり方のポイントについて書かれています。読みすすめていくと、「あれ?こんなことでいいの?」と思われるかもしれませんが、この基本的なことが今後のお子さまの成長につながっていきます。

中には、「聞こえないなら声をかけても仕方がない」と感じたご両親もいらっしゃるかもしれません。でも、目と目を合わせてあやしてもらったり、直接働きかけてもらったりすることで、お子さまは安心できます。はじめは気持ちがのらないこともあるかもしれませんが、少しずつで大丈夫。ときには笑顔で声をかけてあげてくださいね。

また、就学前のお子さまには、ことばを育むための、難聴に特化した療育に通っていただくことをお勧めしています。適切な時期に適切な関わりをすることで、コミュニケーション手段の選択肢や可能性が広がっていくからです。

療育に繋がるまでの間、分からないことや心配なこと、不安なことがあればどんなことでもご相談ください。スタッフ一同、ご家族の気持ちに寄り添い、大切なお子さまの成長を一緒に見守っていけたらと思っています。

今、目の前にいる大切なわが子の成長を楽しんでくださいね。

〈目次〉

お子さんの「ことば」を育むために

- 1) 子育てについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・4ページ
- 2) 補聴器をつけて遊びましょう！・・・・・・・・・・5ページ
- 3) 遊んだり、お世話をしたりするときのポイント・・・・・・・・6ページ
- 4) 家族みんなでお子さんに関わりましょう・・・・・・・・9ページ
- 5) 難聴療育について・・・・・・・・・・・・・・・・・・10ページ
- 参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11ページ



お子さんの「ことば」を育むために



うちの子、耳が聞こえにくいって言われたけれど
どうやって育てたらいいのかしら？不安だわ。

そうですね。赤ちゃんにどう関わったらいいのか不安に感じる
こともありますよね。でも、大丈夫です。基本的な赤ちゃんの
お世話を通して関わっていけばいいのですよ。



1) 子育てについて

・お世話をする中で、赤ちゃんの気持ちを想像しましょう

赤ちゃんは泣くことで自分の気持ちをあらわします。そこで、お母さんはおっぱいをあげたり、おむつを替えたり、抱っこして寝かしつけたりします。

初めは、どうして泣いたりぐずったりしているのか分からなかったとしても、お世話をするうちにだんだんと分かってくることでしょう。

・赤ちゃんの欲求を満足させ、快い気持ちにさせましょう

抱っこしたり、ほおずりしたり、リズムカルにゆすったり、トントンと軽くたたいたり、たくさんスキンシップをとって心地よい気持ちを体験させましょう。

ご両親の笑顔を見て赤ちゃんは幸せな気持ちになり心が安定します。
すると、まわりの人からの働きかけを受け止められるようになります。

・赤ちゃんの気持ちに通じたという体験をたくさんしましょう

赤ちゃんは2ヶ月頃になると、お母さんのいろいろな働きかけに、じーっと見返したり声を出したりします。そんなとき、目と目を合わせて、赤ちゃんと同じように声を出したり、「はーい」とお母さんが返事をしたり、「〇〇ちゃん」と赤ちゃんの名前を呼んだりする中で「分かったよ」という気持ちを伝えましょう。

このやりとりがコミュニケーション発達の土台になります。



普通の子育てでいいのですね。少し安心しました。
でも、耳が聞こえにくいと、お話することは難しいのかしら？

聞こえを補う機器、その一つに^{ほちようき}補聴器があります。

補聴器は、周りの音を増幅してくれる器械です。

補聴器をつけて関わってあげることで、ご両親の声を届けることができます。

* 詳しくは、別紙～基礎編～「補聴器について」をご参照ください。



2) 補聴器をつけて遊びましょう！

- ・まずは、大人も子どもも補聴器をつけることに慣れましょう
- ・一日、5分からで良いので補聴器をつけてみましょう
- ・つけることに慣れたら、つける時間を伸ばしていきましょう

★一般的に、つけている時間が伸びれば伸びるほど、補聴器を通して赤ちゃんの耳にいろいろな音を届けやすくなります

《補聴器をつける場面》

遊び、食事、絵本を読み聞かせるときなど、最初是一緒に関われる時間に補聴器をつけてあげてください。

補聴器をつけてもらったときに楽しいことが起こることが分かってくると、つけることへの抵抗が少しずつ減っていきます。

《補聴器を外した方が良い場面》

寝ているとき、お風呂に入っているとき、水遊びをするときなど。



「補聴器をつけて遊んでください」って言われたけど
どうやって遊んだらいいの？

そうですね。

次は、普段の子育てに、こんなことをするとさらにお子さんが
楽しく感じるポイントをのせました。お母さんお父さんがやりや
すいものからぜひ試してみてくださいね。



3) 遊んだり、お世話をしたりするときのポイント

♡お母さん・お父さん自身も、お子さんの喜ぶ遊びに繰り返し参加して、一
緒に楽しみましょう

お子さんの好きな遊びは何ですか？よく観察すると、同じ動きや遊びを繰
り返していることでしょう。その動きを一緒に真似したり、遊んだりするこ
とで、『一緒に遊んでくれるお母さん、お父さんは大好き♡』という気持ちが育
ってきます。

ポイントは、お母さん、お父さんがおもいきり楽しむことです。楽しく遊
ぶ姿を見て、お子さんは興味関心を広げていきます。

♡お子さんの気持ちに合わせて、丁寧に「ことばかけ」をしてみましょう

ことばかけをするときは、お子さんのそばへ行き、顔を見あわせてから話し
かけましょう。遠くからや後ろからのことばかけはとても気づきにくいのです。

そして、ごはんを食べて嬉しそうにしていれば「おいしいね」、おしっこが
出て嫌がっているときは「いっぱい出て気持ち悪いね、きれいきれいしようね」
など、お子さんの気持ちを代わりにいってあげましょう。

♡身振りやジェスチャーを取り入れてみましょう

話しことばは目に見えないので、聞き流してしまいがちです。身振りやジェ
スチャーを交えて繰り返しことばかけをしてあげることで、実際のものと身
振りとことばがだんだんと繋がっていきます。身振りやジェスチャーは、お子
さんとコミュニケーションを円滑にしていくために、とても大切なツールに
なります。

当センターでも日常的によく使われるジェスチャーのプリントをお配りし

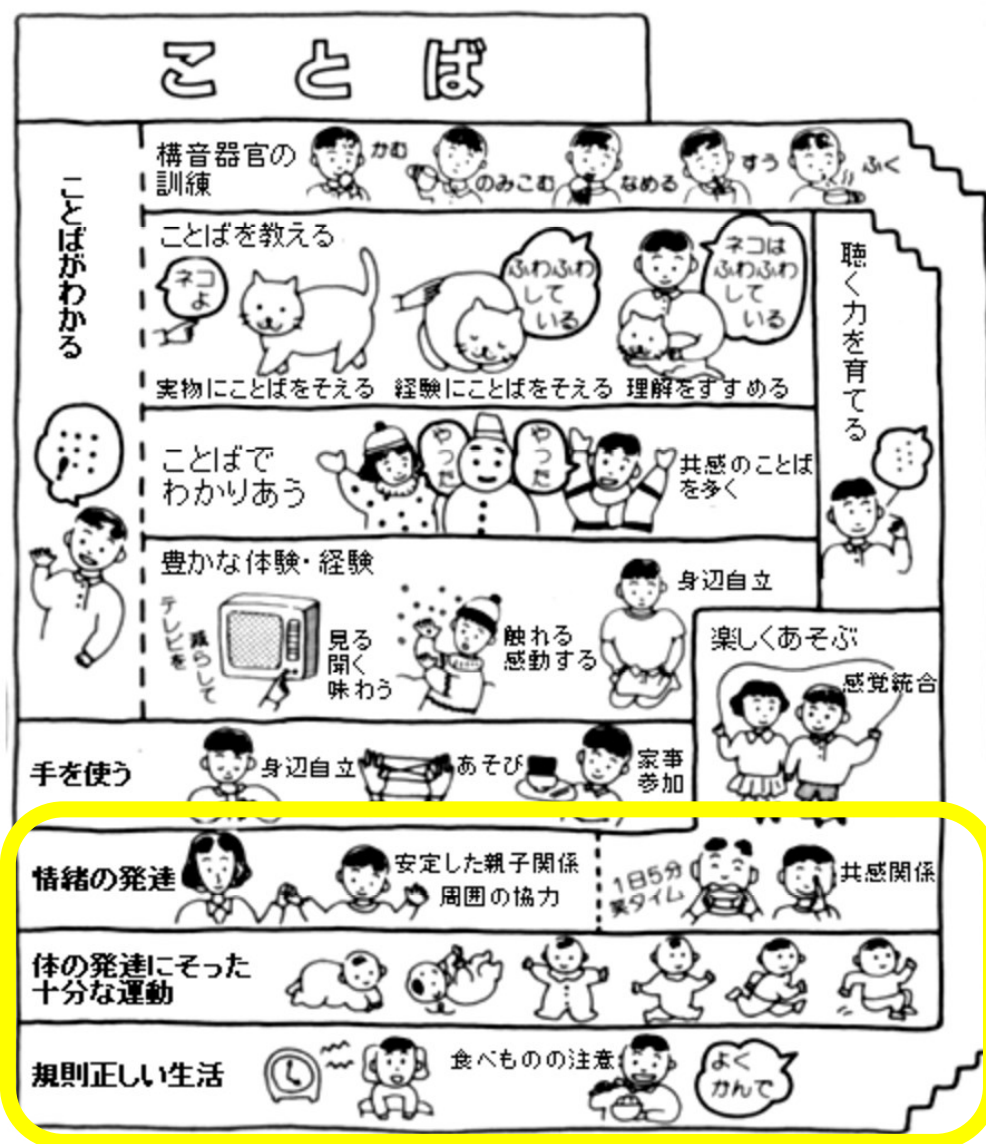
ていますので、ぜひ、ご活用ください。

一般的に、1歳を過ぎると「マンマ」「ブーブー」「ワンワン」などの初めてのことば（始語）をお話することができるようになるといわれています。1歳過ぎになれば必ずみんなが話せるようになるのかというとそうではなくて、だいたい、1歳過ぎあたりでことばをお話する下地が整うお子さんが多いということです。

それまでに赤ちゃんは、お話するための準備をたくさんしています。

周りの大人が一方的にことばを教え込もうとしたり、「これは何？」と同じ質問を繰り返したりするだけのやりとりではなく、赤ちゃんの興味関心に合わせた関わりやことばかけがとても大切になります。その関わりの中で、少しずつ生きたことばが身についてくることでしょう。





↑ 今はここが大切！

ことばをはぐくむ 中川信子 著 ぶどう社より引用

親心としては、はやく話してほしいと思う気持ちは当然ですが、
まずはコミュニケーションの土台をしっかりと固めましょう！
焦らずゆっくりと

4) 家族みんなでお子さんに関わりましょう

お母さん一人で子育てを頑張っているのであれば、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃんなどに相談したり、ときには、めんどろを見てもらったり、家族みんなで協力して育てていきましょう。

お兄ちゃんやお姉ちゃんのいるご家庭もありますよね。お兄ちゃん、お姉ちゃんは、お母さんが毎日頑張っていることを知っています。余計な負担をかけさせまいとお利口さんでいることでしょうか。もしくは、構ってほしくてわがママを言っているお兄ちゃんお姉ちゃんもいるかもしれません。下の子に手がかかるのは事実です。でも、ときには、お母さんと1対1で関われる時間があると、お兄ちゃんお姉ちゃんの気持ちは安定します。家族に協力してもらって、そんな時間をつくってあげることも大切です。

そして、お母さんだけの時間もつくってあげてくださいね。思いきってお子さんを預けて、ママ友とランチをしたり、おでかけしたり、息抜きも必要です。





病院の先生から、療育に通った方がいいって言われたんだけど、本当に通わないといけないの？

仕事があるのだけど・・・

距離が遠くて、通いきれそうにないのだけど・・・

家庭の事情はそれぞれありますものね。
でもね、療育って実はとっても大切なのですよ！



5) 難聴療育について

難聴は、外見では分かりにくく、聞こえ方も一人ひとり異なるため周りから理解されにくいです。

補聴器をつけたとしても、聞こえる人と全く同じように聞こえるわけではありません。聞き取りにくい音があったり音が歪んで聞こえたりします。また、難聴の程度や種類によって、補聴器の効果に差があります。そのため、補聴器をつけて音の存在に気づかせたり、ことばの練習をしたりする必要があります。

そして、ご両親が、わが子の聞こえにくさについて知る必要があります。入園や就学のときに、お子さん自ら自分の聞こえについてお話することはまだできません。そんなとき、ご両親が、わが子の聞こえについて先生やお友達に伝えてあげられるようになることが必要です。

そのためにも難聴に特化した専門的な機関に通い、学ぶ必要があります。

療育の先生は、お子さんとどう関わっていけばいいのかアドバイスをしてくれたり、ご両親の不安・心配ごとに耳を傾けてくれ、解決策と一緒に考えたりしてくれるでしょう。

また、同じ難聴児・保護者同士で悩みを共有し合うことができることもメリットと言えます。お子さんが大きくなって悩みがでてきたときに、同じ難聴の子ども同士で相談しやすい・話しやすい環境をつくってあげることもできます。

お子さんもお両親も安心できる場所にきつとなることでしょう。

〈さいごに〉

乳児期に培われる「お母さんお父さんとじっくり遊んでもらった記憶」が、そのあとのお子さんの成長につながる大切な基礎になります。ですから、「今」をじっくり味わうことにつきあってあげてくださいね。

それでも、子育ての途中で疲れてしまったり、不安になったりしたときは一人で頑張らず誰かに頼ってください。

私たちは、いつも皆さんが笑顔になれるよう、少しでも前を向いていけるように精一杯サポートし見守っていきたいと思っています。

埼玉県立小児医療センター 耳鼻咽喉科
難聴ベビー外来スタッフ一同



〈参考文献〉

- ・難聴児の言葉の学習・子育て・難聴理解 我妻敏博 著 田研出版（株）
- ・ことばをはぐくむ 中川信子 著 ぶどう社
- ・1・2・3歳 ことばの遅い子 中川信子 著 ぶどう社
- ・リファーマー（要再検査）となったお子さんのお母さんと家族の方へ